

《事故情報》

反応釜内の研磨作業で 2 名死亡（酸欠の疑い）

（一社）大阪府高圧ガス安全協会
事務局

8 月 22 日（土）17 時 40 分頃、滋賀県野洲市三上の化学製品工場敷地内で「男性 2 人の意識がない」と 119 番がありました。

30 代の男性作業員 2 名が病院に搬送後、搬送先で死亡が確認されたという事です。

本事故の状況から学べる教訓を職場で考えていただき、自主保安力の強化に役立てていただきたく、情報を配信させていただきます。

1. 事故概要

- （１）発生日時：令和 8 年 8 月 22 日（土） 17 時 40 分頃
- （２）発生場所：滋賀県野洲市三上の化学製品工場敷地内の反応釜内
- （３）作業状況：釜の研磨作業中
- （４）人的被害：死亡 2 名（工事委託会社に所属）
- （５）物的被害：物損は不明
- （６）事故原因：作業が行われていた深さ約 2 メートルの釜内部は酸素濃度が著しく低下していた可能性あり。（酸素欠乏による事故）
- （７）補足事項：化学工場の密閉タンクや反応釜内部での作業は、通気性が悪く残留ガスや化学反応によって酸素濃度が低下しやすく、労働安全衛生法に基づく安全管理（事前の酸素濃度測定・送風換気・保護具の着用など）が求められます。

- ①監督者が作業前に、作業現場が酸素欠乏症或いは硫化水素中毒になるおそれのある場所として、作業員に伝え、認識させていたか。（KY を行っていたか）
- ②酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者が選任されていたか。また、作業員は、酸素欠乏・硫化水素危険作業特別教育を受講していたのか。
- ③作業主任者の監督のもと、事前に酸素或いは硫化水素濃度測定を行い安全確認を行っていたか。
- ④適切に管理された空気呼吸器等の保護具が用意され、必要に応じて使用されていたか。

酸素欠乏は、人間の五感では咄嗟に判断できません。事前に作業現場の危険性を洗い出し、その対応策等を現場作業員に周知し、事故防止を図る必要があります。

2. 報道記事（添付します：出典 朝日新聞ニュース）

- （１）インターネット情報
「滋賀県 酸欠事故」で検索すると出てきます。

以 上

《事故情報》

反応釜内の研磨作業で 2 名死亡（酸欠の疑い）

大阪府高圧ガス地域防災協議会
事務局

8 月 22 日（土）17 時 40 分頃、滋賀県野洲市三上の化学製品工場敷地内で「男性 2 人の意識がない」と 119 番がありました。

30 代の男性作業員 2 名が病院に搬送後、搬送先で死亡が確認されたという事です。

本事故の状況から学べる教訓を職場で考えていただき、自主保安力の強化に役立てていただきたく、情報を配信させていただきます。

1. 事故概要

- （１）発生日時：令和 8 年 8 月 22 日（土） 17 時 40 分頃
- （２）発生場所：滋賀県野洲市三上の化学製品工場敷地内の反応釜内
- （３）作業状況：釜の研磨作業中
- （４）人的被害：死亡 2 名（工事委託会社に所属）
- （５）物的被害：物損は不明
- （６）事故原因：作業が行われていた深さ約 2 メートルの釜内部は酸素濃度が著しく低下していた可能性あり。（酸素欠乏による事故）
- （７）補足事項：化学工場の密閉タンクや反応釜内部での作業は、通気性が悪く残留ガスや化学反応によって酸素濃度が低下しやすく、労働安全衛生法に基づく安全管理（事前の酸素濃度測定・送風換気・保護具の着用など）が求められます。

- ①監督者が作業前に、作業現場が酸素欠乏症或いは硫化水素中毒になるおそれのある場所として、作業員に伝え、認識させていたか。（KY を行っていたか）
- ②酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者が選任されていたか。また、作業員は、酸素欠乏・硫化水素危険作業特別教育を受講していたのか。
- ③作業主任者の監督のもと、事前に酸素或いは硫化水素濃度測定を行い安全確認を行っていたか。
- ④適切に管理された空気呼吸器等の保護具が用意され、必要に応じて使用されていたか。

酸素欠乏は、人間の五感では咄嗟に判断できません。事前に作業現場の危険性を洗い出し、その対応策等を現場作業員に周知し、事故防止を図る必要があります。

2. 報道記事（添付します：出典 朝日新聞ニュース）

- （１）インターネット情報
「滋賀県 酸欠事故」で検索すると出てきます。

以 上

化学製品メーカーで2人倒れ、搬送後に死亡確認 釜の中で研磨作業中

2026年8月22日 21時33分（2026年8月23日 14時43分更新）

小西良昭



✉ f X B! ...



滋賀県

22日午後5時45分ごろ、滋賀県野洲市三上の化学製品メーカー

で「釜の中で男性2人の意識がない」と、119番通報があった。県警守山署によると、大阪府豊中市の男性（31）と大阪市西淀川区の男性（37）が病院に搬送されたが、死亡が確認された。

署によると、2人は下請けの金属表面処理会社の同僚。プラスチックの材料を混ぜ合わせる「反応釜」（直径約1・5メートル、深さ約2メートル）で研磨作業をしていたという。署は労災事故とみて、詳しく調べている。

消防によると、現場周辺は、酸素濃度が低くなっており、2人が酸欠の状態になった可能性があるという。